

平成 29 年度 第 2 回 学校運営協議会 平成 30 年 3 月 6 日（火）19:00-20:00
～協議（意見交換）内容～

○学力について

- 高校では授業にポイントをおいて授業アンケートを行っています。
「あなたは、この授業に満足していますか。」が最後の質問で、確認している。
- 高校 2 年生の取り組みで朝読書をしています。
- 大学生で読書をしない学生が 50 パーセントをこえているそうです。（最近の新聞）
でも読んでいる人の読書時間は増えているので、「読む」学生と「読まない」学生の二極化が進んでいるようです。（中学校）
- 大原野中学校では、学校司書の方がいろいろ工夫されています。
- 主体的・協働的・・・と新学習指導要領では言われている。現在生徒を管理しているが、主体性を持たせるために管理を緩める必要があるが、そのバランスが難しい。（高校）
- 従来の授業とは違い、これからは授業のやり方を変えていかなければいけない。
大原野中ではその研修を深めている。（中学校）
- 家庭学習の時間が増え、学習確認プログラムの結果も良くなっています。（中学校）
- 学習のめあてを授業で示すことによって、子供達が「これを勉強すればいい。」ということがわかってきているようである。（中学校）
- 家庭学習しないのは、・・・
テレビやスマホの誘惑に負け、やることをやらないで逃げている。
- その子供によるが、言わないでもやる子もいるが、やらない子はやらない。
- 「親が見ていない時に勉強をやっている。」と言うが、本当にしていたことがある。
- ガミガミ言われるより、楽しいと思えたらやるでしょう。
- 協働学習では、どういう課題を与えているかが大事なことになるので、家庭学習でも課題の中味が大事なのだと思う。（中学校）

- 商業科は検定試験があり、3級から1級まで、年間2回検定試験がある。学校のテストをあわせると、2ヶ月に1回テストがある。3級を受かって賞状をもらえると、次々学習するようになる。どんどん勉強するようになると、1級までとっていく。「おもしろい」と感じたり「できた」という達成感を感じることができたら、どんどんと勉強に向かう。 (高校)
- 「いつか勉強がおもしろい、楽しいと思えば、勉強するようになるだろう。」と兄が言っている。
- 小学校の時の計算や漢字のドリルの級をやっていくのも興味づけになるかもしれない。
- 優れた所を pick up してもらって「ほめて」もらったのが、よかった。親も「ほめて」もらえるとうれしい。

○地域とのかかわり

- 地域の行事については、積極的に参加する子とそうでない子がいる。中学生がもっと入ってくると、活気がでると思う。地域の活性化にもなる。「子供は宝」とも言われているので、どんどん参加してほしい。
- 体振さんの勧誘の仕方がいいのか、区民体育祭に高校生や大学生の方が多く参加されていますね。800メートルで感動したレースがありました。
- 中学校を通して、中学生の参加を呼びかけられますが、地域の方が、ご自身のお子さんに頼まれた方が地域性が強まるのではないのでしょうか。中学校に気を遣われずに、流れをつくってもらっても構いません。たとえば、竹ニヨンには、生徒会以外の多くの生徒が中に入りたがっている。 (中学校)
- 中学校の時には、子供は親が言うと難しい面があるので、学校の先生や地域の第三者の方に話してもらって、コントロールしてもらえると助かる。社会に育ててもらっていると思います。
- 小学校には小学校の、中学校には中学校の、高校には高校の難しさがあると思う。身体は大きいけど、心と頭がついてこない中学生。そんな子供のコントロールに中学校の先生は慣れている。家庭、学校、地域の連携（皆さんに知ってもらおう）が必要ですね。 (中学校)

※来年度は、年に3回運営協議会を実施したいと考えています。

①5月 or 6月（方針） ②10月 ③3月 ごろです。